

ゆらぎ



手を振るジェスチャー 岩田 和也

手を振るジェスチャーは2つの意味を持つ。無人島に漂着した人間が遠くで巡航する船に向かって手を振るのは「私はここにいます」ことを伝えるためであり、そのサインを目撃した船員が手を振り返すのは、「あなたがそこにいることを分かった」ことを伝えるためである。同じように、待ち合わせ場所でもまだ自分を見つけていない相手に対して手を振ることによって「私はここにいます」ことが伝達され、それに対して手を振り返すことで「あなたがそこにいることを分かった」ことが伝達される。

この両義性を持つジェスチャーが二人の間で延々と交わされる時、そこには連続的な好意の交換が生じる。例として、お別れの時に相手の姿が見えなくなるまで互いに手を振り続けることを考えてみる。このとき、一方が「私がここにいることをあなたに覚えていて欲しいんだ」という好意と惜別の念を込めながら大きく手を振る。そのメッセージを受け取る他方も「分かったよ、あなたのことを覚えているよ」と手を振り返すが、その振り返した手は同時に「私も、私がここにいることをあなたに覚えていて欲しいんだ」という意味を伝える。それに対してまた相手が手を振り返すことにより、「分かったよ、あなたがそこにいて、私に覚え

ていて欲しいこと、そしてそれを伝えたいことが分かったよ」と伝えるのである。

ここに、好意の連続的な循環が生じる。手を振るジェスチャーは好意を伝え、同時に他者の自分に対する好意を承認するが、さらに承認した行為が同時に好意を伝えることになる。相手との別れを惜しむ気持ちが強いほど、私はあなたに好意を伝えたいと思うし、あなたの私に対する好意を承認したというメッセージを送りたいと思う。双方が相手の存在を承認し、承認することを求め、その要求を承認することを以てまた承認を伝える。

互いの姿が見えなくなるまで、好意の伝達が循環し続ける。手を振るジェスチャーが愛おしく思われるのと同時に、若干の気恥ずかしさが伴うように思われるのは、このジェスチャーが持つ意味を我々が直観しているからだろう。

雪解け

茶夜

手のひらを私に貸して爪を立て生命線を伸ばしてあげる

泣く時は君に会いたい街頭でティッシュをたくさん貰った君に

真夜中の電気ポットにお湯は無くキッチンに残るクリープの雪解け

眼科から未知の世界に飛ばされてカップドキアはどんなだろうか

pitfall

守屋 信

「人生には『突然』が付き物である。」

この言葉は、ローマ帝国の政治家であり哲学者であったルキウス・アンナエウス・セネカのお馴染みの名言である。

皇帝カリグラの妹リウィッラとの不義を疑われてコルシカへ追放された時の言葉、あるいは、皇帝ネロに自殺を命じられた時の最期の言葉、とも言われている。

というのはまったくの嘘っぱちで、今「突然」ここで私が思いついた。

突然この世に産み落とされた。

突然車にはねられた。

突然結婚した。

突然仕事に行けなくなった。

突然夫が病気になって、突然この世を去った。

突然文章を書いてみないかと誘われた。

突然男子大学生に声を掛けられた。

こうして自分の人生を振り返ってみても、突然の連続である。さらに今現在、突然いろんなことを思いついては、突然いろんなことに手を出して、タスクの海に溺れて死にかけている。「突然」に流されて生きていると命に関わることになる。人生における「突然」を甘く見てはいけない。

希死塊生

山本タカノリ

うむ、君の生命線は長いな……。もっと手をこちらに。もっとよく見せてくれ。これはあと数十年は生きるんじゃないか。

なんだって、君はまたその話か。ああ、ここを出て右、まっすぐ進んで行くと左手に緑色の看板なんだがそこにあるよ。そう、僕は実際に見たことはないな。普通の病院と変わらない外観で意外と入りやすいらしい。施術もすぐ済むとか。いやいや、そうじゃなくて。

たしかに、そうつらいときに思うことは色々だな。僕かい。僕は、そうだな、この前カッブルに絡まれたときかな。こんな時代にも人間同士で付き合う珍しい奴らだ。人工知能相手なら楽だろうに。僕はずいぶん疲れて、ひたすら休んだよ。

まあ、そう焦るな。所詮、生死も生物である人間が生み出したかなり古い概念だからな。いや、古いから捨てようという話じゃない。生物としての人が矛盾するような思考を持つことも可能性としては十分あるという、ああ、僕なりの共感をしたつもりだった、すまない。だが、だいたい、これこれがしたいと言うときに、明言されていないが誰がそれをしたかというのがあって、その誰かの部分はどう考えても生物なのだが、ああ、黙ってたか。わかったよ。僕は、感覚的に分かかってあげられなくて悔しいんだ。

そこで彼は止まった。おそらく私が持っていたトークンが尽きたのだ。こんな非生産的な会話に何千円も払っている。それでも時間は潰せた。わずらわしさもない。私の寿命はまだまだ長い。